

『with コロナ時代』の社会保障と働き方 ～地域共生社会とソーシャルワーカーの役割～

新型コロナウイルスの感染拡大により、生活スタイルや経済活動の形態が変容する中、これまで以上に、『すべての人々を包摂する社会』と現実に即した社会保障が求められます。感染予防と両立しながら、地域との共生により障がい者、高齢者、生活困窮者を支える、という難しい対応を行うソーシャルワーカーの役割は重要性を増しています。

また働き方については、感染を避けるための在宅勤務において、育児介護と仕事の二重労働、長時間労働という問題も生じており、多様な働き方の利点、注意点も見極める必要があります。

『with コロナ時代』で新たに生じた問題もあわせて、各テーマで現状と課題・今後について考えます。



資料代 各回 500 円（当日支払） / 定員 各回 25 名（先着順）

第 1 回 3 月 10 日（水）18：30～20：30

「貧困」をどう捉えるかーソーシャルワークの視点から

講師：中野 加奈子（大谷大学・社会福祉学）

ソーシャルワークは、1800 年代終盤に誕生してから、常に貧困問題とともに発展を遂げてきました。貧困を捉える視点も、歴史の中で様々変化してきました。本講義では、これらの歴史を振り返りながら、貧困問題への理解を深めます。また、今日のコロナ禍での貧困問題の実態と、解決に向けてソーシャルワークがどのような役割を担うのか、解説します。

第 2 回 3 月 17 日（水）18：30～20：30

権利擁護におけるソーシャルワーク専門職の役割

講師：五百木 孝行（社会福祉士・一般社団法人へいあん後見福祉ネットワーク代表理事）

判断能力の低下した身寄りのない高齢者や障がい者への支援と保護に対し、成年後見制度はどのように機能しているのか、支援の現場を通して見えてきた課題を語ります。

第 3 回 3 月 24 日（水）18：30～20：30

これからの働き方と社会保障、社会保険労務士の役割

講師：小林 さゆり（社会保険労務士）

コロナ禍で雇用はどうなったのか。働き方はどのように変わったのか。社会保障はどのように機能したのか。振り返りつつ、これからの働き方と社会保障について考えます。また、福祉専門職であるソーシャルワーカーとの協働を視野に入れ、生活安定機能の強化に向けた社会保険労務士の社会的役割について考えます。

参加申込みはあったかサポート・ラボール学園ホームページの Web フォームから。
又は、下記に必要事項を記入のうえ、FAX またはメールでお送りください。

FAX 075-352-2646 E-mail attaka-support@r6.dion.ne.jp

参加希望回 3月10日(水) 3月17日(水) 3月24日(水)

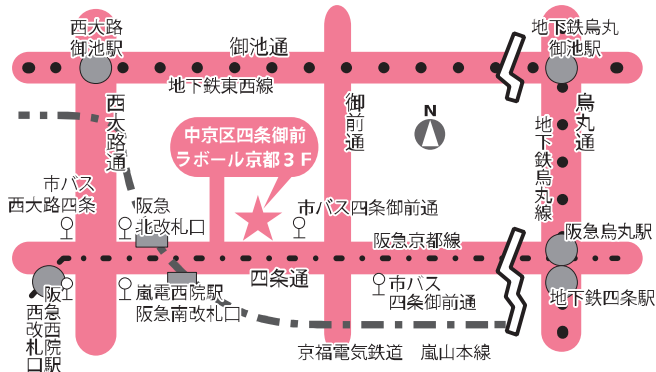
氏名

住所

電話番号 メール

会場 ラボール学園（京都市中京区四條御前西入るラボール京都3階）

お問い合わせ 075-352-2640（認定NPO法人あったかサポート）



- ※市バス「四條御前通」バス停すぐ※嵐電西院駅東へ徒歩1分
- ※阪急西院駅（河原町方面からの方は南改札口東へ徒歩1分）
（梅田方面からの方は北改札口東へ徒歩1分）
- ※地下鉄東西線「西大路御池駅」1番出口南へ徒歩10分

<<主催>>

公益社団法人京都勤労者学園（ラボール学園）

<http://www.labor.or.jp/gakuen/>



認定NPO法人あったかサポート

<http://attaka-support.org/>



<<ご注意等>>

- * ご提供いただいた個人情報は、セミナーのご案内、緊急連絡のみに利用させていただきます。
- * 新型コロナウイルス感染症対策のため、教室内の常時換気を行います。
- * ソーシャル・ディスタンスを考慮し、一机1人掛とするため、定員を限らせていただきます（表面参照）。満席の場合は、参加をお断りすることがございますがご了承ください。
- * ご参加の際は、マスクを着用いただきますよう、ご協力お願いいたします。
- * 新型コロナウイルス感染症拡大等のため、延期または中止となる場合があります。